

まち会だより

'06

春号

■発行：特定非営利活動法人 調布まちづくりの会
〒182-0023 東京都調布市染地 3-1-19 ハ3-510・TEL&FAX:0424-88-4022
e-mail : machikai@annie.ne.jp http://www.annie.ne.jp/machikai/

vol. 16

「まちのバリアフリー部会」調布市役所で提言書のプレゼンテーションを行う

まちのバリアフリー部会では約3年間の活動をもとにバリアフリーのまちづくりに関する提言書を作成し、昨年10月調布市へ提出しました。また、11月には調布市役所職員約30名と市長に対して提言のプレゼンテーションを行いました。
(2ページに関連記事)

「映画のまち 調布」動き始める

「映画のまち 調布」部会がいよいよ本格的に動き始めました。
「映画」をキーワードとして、調布のまちづくりに市民がどう関われるか。これらを摸索する為に、今年に入ってから既に2回、映画関連の関係者を講師に迎え、学習会(楽習会)を行いました。会員以外の方にも大勢ご参加頂くことができ、今後も構想段階から一緒に考え、意見を交換する場として行きたいと思います。次回の勉強会を5月下旬に予定しています。
(3ページに関連記事)

「景観部会」7年後のまちあるき

しばらく休止状態だった景観部会ですが昨秋に調布市の南地区及び中央北地区でまちあるきを行いました。7年前に歩いたルートをたどりながらその間の変化などを調査しました。調布まちづくりの会の原点とも言えるべき都市計画マスタープランの見直しや市民版景観ガイドラインも視野に入れつつ、今年も数回のまちあるきを行う予定です。
(4~5ページに関連記事)

「おしゃべりサロン相互塾」6周年を迎える

多くの市民の方に参加して頂き、講師をお願いしてきました相互塾が去る3月に6周年を迎えました。3月の第74回で、第1回からの参加者の延べ人数が、1958人となりました。2006年3月からは、発足後7年目に入りました。これからも、ご最真にお願ひします。
(6~9ページに関連記事)

2005年度第1回定期通常総会開催

昨年11月19日に定期通常総会を開催しました。出席者及び委任状提出者合計25名の採決により、若干の文言の修正はありましたが、過年度の事業報告・決算や本年度の事業計画・予算計画は全て可決されました。14~15ページに昨年度の決算書が掲載してあります、ご覧下さい。

■ 第2回ワークショップ みんなで話そう調布のバリアフリー を開催します！！

日時：2006年4月22日(土)14:00～17:30(開場13:30)

会場：調布市文化会館たづくり12階大会議場

2004年5月に開催した第1回ワークショップでは皆様の貴重なご意見と大きな反響を頂きました。その後2年が経ち京王線の地下化工事が始まるなど、街の様子も少しずつ変化しているなか、ふたたび第2回ワークショップ「みんなで話そう調布のバリアフリー」を開催することにいたしました。皆様のご参加をお待ちしています。

【主な内容】

■部会の活動紹介と提言書のプレゼンテーション

■調布市からのプレゼンテーション

・福祉のまちづくり条例・福祉3計画

・交通バリアフリー基本構想策定

■テーブルワークショップ

主催：NPO 法人調布まちづくりの会

まちのバリアフリー部会

協力：調布市

後援：調布市社会福祉協議会・調布市障害者(児)団体連合会

※資料代として300円のご協力をお願いします。

※終了後に懇親会(自由参加会費700円)があります。

■ 調布市で提言書のプレゼンテーションをしました。

約3年間半の定例会、フィールドワーク、ワークショップ開催などの活動を通して、内外から頂いた意見や様々な課題を検討し、行政への働きかけと市民への啓発を目的に、10月に提言書を策定しました。

そこで、10月26日に市の政策室に提言書を提出し、その後11月30日に、当部会からは8名が参加し、調布市役所職員約30名と市長に対して提言のプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーション終了後、職員との意見交換をし、市長へ直接、提言書を手渡しました。市長からは、「調布市交通バリアフリー法基本構想検討委員会がおこなわれている中、丁度時宜にかなった貴重な提言を頂きました。この提言内容の全て実現可能かは精読させていただきますので、皆様には柔軟なご理解をいただきたいと存じますが、私としましては、ご主旨を汲み取った上で施策に反映していくよう努力したいと思います。」との言葉がありました。



プレゼンテーションの様子



市長に提言書を渡しました

■ 国土交通省・踏切改善懇談会の踏切視察に参加協力をしました。

3月12日、京王線柴崎駅東側隣接の踏切(つつじヶ丘5号踏切)と小田急線代々木八幡駅西側隣接の踏切(代々木八幡1号)のバリアフリー視察に参加協力をしました。柴崎駅の踏切は車や人の往来が頻繁な踏切では、両側に緑に着色された歩行者用の通路があるのはよいものの、車と歩行者が一斉に通行する場合など危険を感じる。非常ボタンが視野に入りやすく、車椅子では手が届きにくい。踏切内から点滅表示が見えないので不安。といった意見がありました。また、代々木八幡駅の踏切では左折する車、直進する車などが多いわりに人待ちスペースがなく危険。踏切直前の道路がカーブしてスロープがあるため車椅子では踏切待ちは困難。音声警報装置が一箇所のため警報音が遠くかすかな音にしか聞こえず危険。」など様々な課題が発見することができました。この視察は同懇談会の大切な資料になるようです。



京王線柴崎駅踏切



小田急線代々木八幡駅踏

映画のまち調布

「映画のまち調布」部会

「映画」をキーワードとして、調布のまちづくりに市民がどう関われるか。これらを摸索する為に、初年度は映画関連の関係者を講師に迎え、学習会（楽習会）を新たに立ち上げました。一般市民の方も、構想段階から参加して頂き、一緒に考え、意見を交換する場として行きたいと思えます。

■ 第1回楽習会 2006.1.8

テーマ：「映画のまち調布」～今後の展開と推進について

講師：調布市生活文化部産業振興室 産業振興センター担当課長 豊田 靖 氏

第1回目は、かつては「東洋のハリウッド」といわれ、今なお映画関連の企業が集積している調布市の今後について、行政の立場から話していただきました。調布市と映画の関わりは昭和7年、京都より誘致、日本映画(株)設立、その後日本活動写真（日活の前身）、昭和20年大映、現在角川大映として、調布には日活、大映二つの撮影所があります。

平成17年度は、調布市制50周年に当たり、①映画のまちウォークラリー②高校生フィルムコンテスト等を行ない、特にフィルムコンテストは、全国規模の事業に展開したいという希望があります。調布は既にNPO法人フィルムコミッションも設立され、多摩地域の連携など今後の発展が期待されます。

市民の方からは、行政として映画関係の窓口を一本化し、まちづくりの為に持続的に推進することが必要であるという意見が出されました。

■ 第2回楽習会 2006.3.29

テーマ：「映画のまち調布」

～市民、自治体、企業の連携の為に今、出来る事

講師：日活株式会社撮影所事業本部学院部係長 打田 正 氏

第2回目は文化の薫り高いまちづくり、産業振興による地域活性化、撮影に協力して貰いたい製作者（企業）のそれぞれの立場から、どう連携させるかについて、映画界における立場、本音について興味ある話をして頂きました。

製作者側の立場として、知名度のアップにはなるが、期待されるほどの経済効果は出ないこと、市民には迷惑をかけることがある。そこで、映画界の特色を知っていただきたい。映画人と言われる人（俳優、監督、プロデューサー）は、作品製作のために打ち込んでおり、一般常識を超越する部分があり、この辺の調整及びお互いに理解をし合えるかにある。製作の為に市民も行政も如何に良い環境を作って頂けるかである。まちづくりについても、映画のまち特区の申請や色々な時代の商店街がある、電柱が一本もない町があるなどが望ましい。

市民の方からは、高齢者向けの映画など幅の広い層の映画を作る必要がある。川原の改修にも、すべて今風になる恐れがある。駅を降りて、映画のまちという雰囲気があるまちづくりが必要。過去にあった映画のまち調布は残像に過ぎない。しかし今消えないうちに手を打っていくことが大事であり、市民、行政、企業の連携と相互理解が強調された。



<南エリア編>

10月9日(日)、まち歩きには雨あがりの肌寒い午後、都市計画図と地図を片手に、多摩川住宅中央～せせらぎの散歩道～染地(府中崖線下)～郷土博物館～へび山 まで歩きました。今回は、都市計画図をみながら沖崎さんの建築家としての見方も参考に、建物の高さや道路幅、住宅の高さと田園風景、家並み、庭の植物などなど「景観」について考えながらこれまでとは違う視点でまちを再点検することができました。

みんなでゆっくりと歩きながらまちを歩くとまた気づいたことがあります。たとえば「こんなところに神社はあった?」「せせらぎの散歩道の水の流れはどうなったの?」「ごみ箱が植木鉢に変わった?」「ごみも多い」「マンションが増えたね」「たんぼが減ってしまった」「でもまだたんぼが残ってる」「子どもはたんぼに入ってるの?」「この小川には以前歩いたときには水が流れてたよね」「たんぼに水をひく栓だ!」「布田遺跡公園ができたんだ」「畑が少なくなったね」など7年前との比較をし、あらためて残したい風景、大切にしたい風景に気づいた1日でした。

景観部会が活動をはじめたのは、都市計画マスタープランの策定と同時期からです。あれから?年がたち、まちの風景も大きく変化してきました。調布市駅前では、地下化にむけての工事や再開発が始まっています。準工業地域でのマンション建設ラッシュから2005年3月「調布市ほっとするふるさとをはぐくむ街づくり条例」が制定されました。2004年6月の国の景観法の制定、2006年3月策定の環境基本計画の中でも緑の「景観」が位置づけられています。まち会でもまちづくりと景観について10年前とのまちの景観の比較をしながら、意見をまとめる作業と活動に多くの市民とともにつなげていければいいですね。

(安部宝根)



多摩川住宅北側のせせらぎ散歩道



進むマンション開発(染地2丁目)



均一化された建て売り住宅



比較的新しい建て売り住宅はやや個性を持たせている



染地一丁目近辺に残る水田



宅地化する畑(染地一丁目)

<中央北エリア編>

11月20日(日) おだやかなお天気の後、この10年前後農地と緑の多いエリアから宅地開発・マンション開発が急激に進んでいる地区、中央北エリア、柴崎1丁目・2丁目から深大寺に至る緑の消失経過を見て歩きました。概略コースは

国領駅北口～(鎌倉古道)～調布警察署～第七中学校～「中島橋」～柴崎1丁目～
光照寺～旧京王線軌道敷分譲地住宅～佐須街道を横切り～島田理化～柴崎2丁目準工業
地域(マンション建設ラッシュ地区)～上ノ原公園～昇華学園～明大グランド(大規模
マンション建設予定地)～絵堂～青渭神社～深大寺

今回のまちあるきでは用途地域と街並みとの関連を沖崎さんの説明を聞きながら意識して歩きました
がまだまだ多く残るこのエリアの緑を大切にしたいとあらためて思った半日でした。(都築賢二)



国領駅北口広場に集合



国領町2丁目の鎌倉古道



野川(八雲台2丁目)



第七中学校の旧京王線跡の表示



中島橋



光照寺の七福神



生産緑地(柴崎1丁目近辺)



旧京王線跡に建てられたアパート
周辺の区画に対して斜めに建っている



進むマンション開発
(柴崎2丁目)



上ノ原公園(国分寺崖線)



拡幅予定の原山通り



中央高速を渡る橋

サロンネットワークの「相互塾」部会

■おしゃべりサロン「相互塾」は6周年！を迎え、3月から7年目に入りました。

おしゃべりサロン「相互塾」も2月で、まる6年となり、3月は第74回を迎えました。第1回からの延べ参加者が、6年1カ月で1958人に達しました。そして、今年は、「午後のティーサロン」も隔月開催の計画を持っています。「数学おあそびサロン」も飛田給の調布市青少年交流館に定着しました。さらに第6中学校と第8中学校の補習教室にも関わることになりました。「調布不思議発見」の作品は引き続き、「あくろす」2階に常設展示していただいています。

他団体との交流の成果として、「調布市民放送局」の設立に参加し、昨年8月に発足し、ケーブルテレビジョンのJ:COMを通じて、この4月より放送されることになりました。この活動には、中央大学の松野先生のご指導をいただき、さらに多数の市民の方々から寄付として活動資金を頂戴しています。

●第66回「相互塾」:「市民放送局の時代～地域情報化政策転換のすすめ～」松野良一さん(中央大学教授)

7月25日、今はソフト生産の時代になっていること。そして、地方の情報化が、官主体から市民主体に移行している状況を話され、市民(下)からのニーズを吸い上げる動きが望まれている。動き始めた調布市民放送局は、市民がまったくゼロからスタートする初めてのケースだそうで期待されるとの事でした。調布市民放送局に対するコメントとして、いろんなことに感受性を高めること。一つのパッケージを持つと考え、マルチメディア公開することを意識すること。著作権、肖像権などに気をつけること。常に5個くらいの企画が同時進行させること。無理を絶対にしないこと。フォーマットを造ると良い。



最後にテレビ番組制作は地域コミュニティのツールとなり得ると述べられた。

●第67回「相互塾」:「市民が語る私の戦争体験～特攻隊の一員となって～」

「学徒出陣から特攻隊員となって」吉川 昌さん(元ヤンマー営業本部長)

「我不時着ス エンジン無し」米田 豊さん(京和工業株式会社 相談役、緑ヶ丘1丁目自治会会長)

8月7日(日)、吉川さんと米田さんに第2次世界大戦での特攻隊体験をお話いただいた。吉川さんは陸軍、米田さんは海軍と異なる軍での体験で、その違いを感じることができ、大変良い機会を与えていただきました。吉川さんは家族の方にも初めてお話されたようで、フロアから長男の方が発言され、聞いているわれわれにも貴重な場に居合わせることができました。米田さんには、飛行機のエンジンがストップ、不時着したが、周りの人の助けがなかったら生きて還れなかったとの感謝の気持ちを述べられた。お二人ともあの神宮外苑の学徒出陣に参加されていて、同じように飛行機の帰港中に不時着したという体験されていたという偶然も重なっていました。吉川さんの場合は、今回、お話されることが、懐かしい人にお会いになるということもあり、本当に良かったと思いました。フロアからの発言も体験談があり、多くの感動を受けました。



吉川昌さん

米田豊さん



会場風景



吉川さんの資料



米田さんの資料

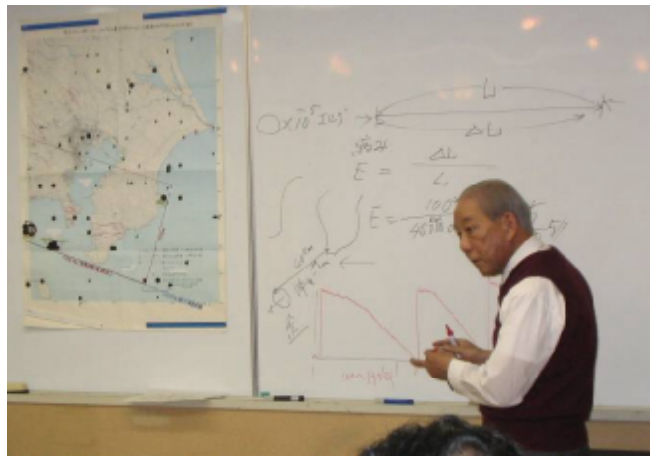
●第68回「相互塾」：「ランの素顔を知る」齊藤亀三さん（（財）服部植物研究所理学博士）

9月26日、齊藤倉庫社長の齊藤亀三さんにランの植物学者としての造詣の深さを彷彿とさせるお話でした。ランは種類が最も多いそうで、そういう意味では植物のすべてを表しているとのこと。地球上の北から南、2千メートルを超える高山にも野生で育っているそうです。雨がほとんど降らない地でも育ち、華やかな美しさを示すものもあれば、肉眼では良く見えない小さな花を無数に沢山咲かせるランもあり、実際に小さな花が沢山咲いているランを、ルーペと共に回覧されました。スライドでは、世界中の特徴のあるランを見せていただきました。子供のころから植物が好きで、大学を選ぶときもコケを研究しているところを選んだそうです。その過程でランに興味を持ち、今もコケとランを中心に研究を続けておられます。新種を手に入れると（世界中から齊藤さんに送られてくる）、スケッチし、アルコール漬けの標本にされるそうで、倉庫屋で良かったと言われていました。



●第69回「相互塾」：「迫る！首都圏の直下型地震」岩田孝行さん（東大地震研究所研究推進員）

10月31日、数字や数式がかなり飛び交い、珍しい相互塾になりました。大きな地震が近いといわれている関東地方の状況を知りたいと集まった人は37人になりました。久し振りに30人を超えて、充実したものになりました。日本の周辺は4つのプレートからなっていて、地球の表面（地殻）は動いている話から始まり、その動きによって地殻は縮み、その縮み量と元の長さとの比が10のマイナス4乗になると破壊が起こる。現在はマイナス5乗だそうで、破壊になる状態になる周期が100年の単位であることを知りました。また、マグニチュードM5が30個同時に起こったときに、M6になる。関東の首都圏では30年後にM6、2程度の地震が起こると予想され、それほど大きな破壊はなさそうだとのこと。また、震源地が陸地のときは津波はないと言えることと、地震の速度は、その海の深さによって変わり、例えば、深さが2000メートルのときには時速500キロメートルとなり物凄い速さであることがわかります。津波は、すぐに30メートルより高いところに逃げるのが大切です。



●第70回「相互塾」：「宇宙ステーションと私たち」木部勢至朗さん（宇宙航空研究開発機構参事）

11月28日、調布にある宇宙航空研究所に勤務の木部勢至朗さんに宇宙研究が私たちの生活にどのように関わってくるのか、お話いただいた。映像も交えての話で、宇宙というロマンが感じることができたのか、その壮大さに感動する方も多く、木部さん自身も熱が入って、お話が2時間に及びました。宇宙環境の利用は、地上では容易に得られない無重力、高真空、豊富な太陽エネルギーの環境を利用でき、セラミックや半導体の製造の研究が行われたり、動植物の生態の変化について、メダカが交尾したことが分かった。月の次に行ける星は気温、ガスの状態が地球に近い火星だろうとのこと。そして、日本の宇宙開発費用は2500億円で、GDP比0.05%である。宇宙開発の意義の一つとして、国籍、人種、宗教の違いを超えた新しいコミュニティの創出が挙げられていた。千人、1万人のオーダーで行ければ、国籍、宗教という概念はなくなると考えられるからです。今後の課題は、輸送コストの劇的な低減と人間が生活をするための技術、宇宙環境の保全だそうです。ゴミを含めた地球周辺の飛んでいる物として、10cm以上大きいものが9000個あり、そのうち5%が運用されている物だそうです。



●第71回「相互塾」:「健康のための暮らしかた～楽しみながらカラダのセルフチェック～」菅原知子さん(ティップネス国領サブマネージャー)

12月19日、国領駅にあるスポーツクラブのティップネスのサブマネージャーの菅原知子さんに健康を維持するための心得を、スクリーンに映して、体力についての説明。行動体力には、筋力、パワー瞬発力、筋持久力があり、全身持久力には有酸素系能力、心肺持久力があります。心肺持久力はインターバルトレーニングで鍛えられるが、運動が厳しいので、慎重にやって欲しいとのことでした。ストレッチ体操をして、参加者全員が体力チェックを行い、年齢に対して体力状況を把握する点数を出し、年齢より若いかな寄りかを知ることができました。チェックする体操には、肩の柔軟性、体肝部の柔軟性、バランス、敏捷性、筋持久力などがありました。この日は、気温が低く、寒い日であったため、集まりが少なかったが、股関節のこと、散歩を楽しむ方法、動体視力と年齢、心肺機能の鍛え方、など質問もたくさん出て、楽しい相互塾になりました。



●第72回「相互塾」:「身近な国際交流～調布市でも3500人の外国籍市民が在住～」岡田 登さん(日本語ボランティア代表)

1月30日、調布に住んでいる外国籍の人に日本語を教えておられるボランティアグループで、もう10年も続けておられ、今年度発行された冊子「日本語学習・易しい!楽しい!難しい?」も交えて、楽しい話、苦労した話など、広範にわたってお話いただいた。調布には、3,665人(人口比1.7%)の外国籍の人が住んでいること。その人たちの一番困っていることが、言葉であること。それは、お医者さんや学校の先生とのコミュニケーション、地域のルール、街なかでは日本語の表現だけであること、などです。教え方は、現物主義で、標準的なテキストなどはなく、基本的には個人教授になっている。先生と生徒との間で、相談し、先生のやり方に任せているそうです。長く実行されてきた経験にもとづくお話で、心に響きました。まったく日本語も英語もできない人が来られる場合があるが、そのときは、絵や写真などを使って、ボディランゲージによるそうです。隣に住む外国人に、菊野台の地域センターに誘ってください。



●第73回「相互塾」:「インドネシアのカリマンタン島に21,037本の植林をめざして」中島浩司さん(内外サービス(株)代表取締役)

2月27日、急遽テーマを変え、中島浩司さんにインドネシアのカリマンタン(旧名ボルネオ)島での日本軍による虐殺事件(ボンティアナク事件)により、21037人(別の調べによると、1500人程度)の人が殺されたと言われていいます。それに応えて、林学博士である岸本定吉さんが中心になって、同じ数の木を植林する活動を始められたこと、中島さんが参加され、現在に至っていること、現在はまだ1万本までで、これから何年かかるのだろうかとお話でした。その植林のツアーが毎年11月に行われています。(10日間21万円、1人50本の植林)、木は5年で4~5mに成長。植林の他、炭焼きの方法の移植もされていて、インドネシアは世界で唯一日本と同じ、酢を作ることができる国だそうです。備長炭の特徴は電気を通し、比重が1より大きいこと。1000度以上で焼くとそうなるとのこと。インドネシアでは、雨季と乾季があり、雨季に植えても乾季に枯れてしまうのが普通ですが、根っこの所の土に炭を混ぜて植えると枯れないということ。面白いですね。



●第74回「相互塾」:「環境にやさしい、新しい電池～家庭にも燃料電池が!～」由川敬之さん(東京ガス学校コーディネーター)

3月27日、東京ガスの由川さんに、地球の温暖化が効果があるといわれている燃料電池、水素と空気中の酸素との化学反応で電気をつくる燃料電池が話題になっていますが、水素を作り出すために都市ガスは、石炭や石油に比べて二酸化炭素の発生する割合が40%少ない家庭用燃料電池が開発された。1KWの電気のほかにお湯を作り出すこともでき、補助金制度を利用して普及活動が始まった。FCパートナーシップ契約を結ぶそうで、10年間、100万円だそうです。2010年には210万台の普及を目標にしているそうです。水素と酸素から電気と熱(お湯)を作り出す素子としては固体高分子膜

(PEFC)3層の方式が使われている。この素子によって、豆球の点灯や玩具の自動車などモーターの駆動実験を全員で楽しみました。



■「数学おあそびサロン」:2004年1月にスタートし、2年を経過した。現在は飛田給の調布市青少年交流館で毎月第4日曜午前10時～12時に行っています。

会員(生徒)としては、4人のままで増えていませんが、今年は、いろんな方面へ拡大する可能性が出てきました。第6中学校と第8中学校への補習学習に協力できるようになったこと、ビデオ鑑賞による楽しい数学への展開などによって、話題が増えてきたことにより、皆さんの口コミPRに期待できるようになりました。

会場の青少年交流館の多目的室には、薄型の大型テレビが設置されており、ビデオを利用した学習もでき、幅の広い交流もできます。おあそびサロンの名に相応しいことも考えていきます。また、科学系の博物館の見学も検討していきます。



旧甲州街道より



調布市青少年交流館

●第6中学校と第8中学校の補習学習に協力することになりました。

市の教育委員会関連の職員の方の紹介で、第6中学校と第8中学校の補習学習に関わることができ、両校とも1月から毎週1回、放課後、数学の勉強を手助けしています。6中では「ステップアップ講習」に対して協力し、8中では「質問タイム」を設けて、数学の基礎が身に付けてくれればと思っています。4月からは、教科書に沿った問題集プリントを作成したり、父兄の承認を得て受講の申し込みをしていただいで、本格的に始まります。また、青少年交流館の生徒たちとの交流を実現したいと思っています。



第6中学校



第8中学校

■「調布まちかど博物館(エコミュージアム)」実現に向けて、新しいサロンを考えています。

景観部会の成果を活用し、エコミュージアム的発想で、調布のお宝を探り、広く人材を求め、行政も巻き込んで進めて行きたいと考えています。会員を始め、広く関心のある方の参加・協力をお願いします。また、昨年11月23日に行った市制50周年・戦後60年記念の市との共催事業「翔べ!調布」のワークショップでの成果も取り入れて、進めていきます。

■「午後のティーサロン」

懐かしの映画、懐かしの映画音楽を通じて懐かしさや思い出を語り合う。

●第13回、7月30日、「アメリカ映画と映画音楽、50年代から60年にかけて」(アメリカ編)

1950年代はMGMのアーサー・フリードが製作した大型ミュージカル映画の黄金時代。パラマウント映画を中心にヴィクター・ヤングがパラマウント映画で映画音楽を手掛けた時代でもありました。「黄金の耳飾り」の主題歌「ゴールデン・イヤリング」「愚かなるわが心」の「マイ・フォーリッシ・ハート」や「シェーン」の「遥かなる山の呼び声」など映画の主題歌は軒並み大ヒットしました。ディミトリー・ティオムキンやヴィクター・ヤングのおかげで映画の主題歌がヒットして覚えやすいメロディのテーマソングは映画音楽の時代を作りました。このときは「エデンの東」「ピクニック」「ジャイアンツ」「ティファニーで朝食を」「シャレード」など取り上げました。

●第14回、10月30日、「SWING JAZZで“Swing”しましょう！」

時代は1930年時代。時代はあたかもラジオ時代でした。人々は新しいメディアに夢中でした。ラジオから聞こえてくるベニー・グッドマン、グレン・ミラーのスイングジャズに酔いしれました。戦後「ベニー・グッドマン物語」「グレン・ミラー物語」「五つの銅貨」などが映画化され、この日はジャズメンとジャズ音楽を取り上げました。映画のシーンでは往年のハリー・ジェームス、ライオネル・ハンプトン、ジーン・クルーパー、ルイ・アームストロングなどの懐かしいジャズマンの姿が観られ、楽しみました。



●第15回、1月22日、「ハリウッド二枚目スター ゲーリー・クーパー」

アメリカ人の男の魅力を映画ファンに焼き付けたゲーリー・クーパー。

頼もしく、たくましい一面、すこぶる素朴で人間的な弱さにもじませているクーパー独特の魅力。戦後私たちを虜にしたクーパーは日本における外国男優の人気トップを独走しました。

数多くの名作映画に出演してアメリカ映画史上に大きな足跡を残して60歳で亡くなったゲーリー・クーパーを取り上げ、「モロッコ」「ヨーク軍曹」「打撃王」を通じて懐かしの二枚目スタークーパーを楽しみました。



■他団体に交流として、「相互塾」のメンバーが、「調布市民放送局」の活動に参加する。

昨年8月18日、「調布市民放送局」(代表は当会会員の森下政信)は、設立準備会から正式に発足した。中央大学の松野良一教授の指導を全面的に受けて本放送へ向けての活動を開始して、1月22日にケーブルテレビジョンJ:COMにて、パイロット放送番組を流すことができました。パイロット放送に対して、一般紙6紙が、1月17日から25日にわたって、地方版を中心にほとんどの写真入りで大きく報道していただいた。そして、3月7日には、NHK総合テレビの首都圏ネットワークの中で紹介していただき、私たちが楽しく撮影したり、編集している姿を映していただいた。4月16日の週には、第1回目の本放送が始まります。



撮影風景



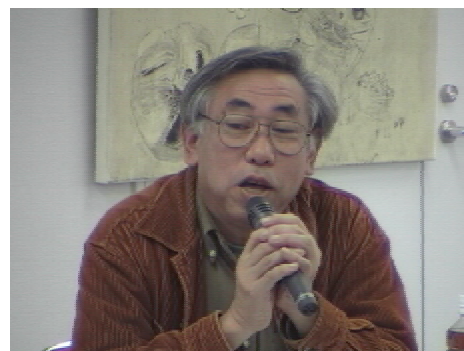
試写会風景

「翔べ調布」：市制施行50周年記念(2005.11.23)

市制施行50周年を記念して、昨年11月23日に「市民の集い」として開催し、古橋研一氏の基調講演と市民によるワークショップを開きました。調布の街を調布とその周辺に住んでいた人を江戸時代まで遡って振り返り、調布という土地柄を見つめなおして、調布人の姿をイメージしながら、私たちが、これからのまちづくりにどのように関わって行けるのか、皆さんと考えたいと思いました。

●基調講演「歴史からみる調布・・・そして未来へ」

1955年(昭和30)に調布市が誕生して、昨年50周年を迎えました。古橋研一氏は、この調布に人々が住み着いてから、現代に至るまでには長い歴史の道を残された記録から、調布人が時代の流れの中で、何を考えていたのかを、時間を遡り、市民の視点で述べられました。そして、明日の調布を考えるヒントを与えていただきました。お話は、調布の成り立ちを甲州道中の完備から人が移り住んできたことから解き始め、幕末の調布人の政治的バランス感覚を飯盛女の許可願いに見、明治では、調布周辺で起きた秩父困民党、武相困民党などの自由民権運動、週刊多摩新聞の創刊に世界の風を見た。大正では、京王線の誘致に産業に対する市民感覚、戦争前後では、歩兵銃を生産する企業ができ、一方で学童疎開児を受け入れたが、戦後の混乱時の市民の不満は多かったようです。そして、調布市の誕生、そのころには、特種飲食街の廃止運動など市民の運動があった。その後、高度成長とバブル時代を経て、今日に至っている。これからの調布市民は、市民意識が高く、NPO法人が30以上存在し、3つの大学もあり、定評のある図書館は市内に11館もあって、自然に恵まれているので、期待が持てるという主旨のお話を聞きました。



古橋研一(ふるはし けんいち)氏：1947年(昭和22)生まれ、調布市に住んで33年。「僕の調布にも空襲があった」

(1986年)「調布にも引揚者寮と戦災者寮があった」(2000年)「調布の蔵」(2001年)「青南国民学校の神代村疎開」(2004年)「資料から見た学童疎開」(2004年)などの著書多数。

●ワークショップ「すき・きらい調布大研究」：自由発言

ワークショップには、30名が6人5グループにて行うことができました。

グループ発表にはフリーマーケット方式を採用して、参加者全員に発言する機会もでき、全員が知り合いになるという効果もあって、参加者に概ね好評であった。ワークショップの様子と成果の模造紙の一部を写真で示します。



●その後の「翔べ調布」の状況

ワークショップの成果を基に、その後、月1度の割合で、今後への展開を議論しています。検討を進めるテーマとして、次のテーマが挙がりました。・学校開放・地域交流・行政との協働・地域活動に新人を・自然環境を守り、育てる(野川、崖線、湧水)・図書館をもっと充実させよう・そば・・・、多摩川、映画の街調布をつくりあげる・仙川商店街とまちなみ・すいがら、犬のふん、自転車の放置・市職員のローテーション・議会のTV中継。この中から、映画については、「映画の街調布」部会をメンバー拡大して進めることになりました。今後も月1回、継続してミーティングを続けて行き、市民と行政の協働につなげて行きます。

■交通バリアフリー基本構想策定委員会（新井昭子さん）

駅施設を中心に、周辺の道路や駅前広場などの面的なバリアフリー整備を進めていくため、2006年度までに基本構想を策定します。公募市民や各障がい者団体、学識経験者、交通事業者、商工関係者、道路管理者、行政関係者など30人の本委員会のほか、3つの部会で活発な議論やワークショップが行われています。京王線の連続立体交差事業と合わせ調布のまちが大きく変わろうというときです。みなさん、ぜひ傍聴・参加を！（当会会員の愛沢法子さんも委員です）

■市民活動支援センター運営委員会（安部宝根さん）

市民活動支援センター運営委員会は、公募のセンター長をはじめ現在15名の委員構成で月1回夜・昼交互に開催され、センター（あくろす）と6ヶ所のランチの運営・事業について協議しています。2年目（2006年度）予算では、市からの委託金1600万円余の90%が人件費で、事業では、市立学校ボランティア助成金から市民活動助成金への変更、NPO調査研究・災害時ネットワーク事業が新たなものです。センターの存在と場所の周知とともに「何ができるセンター」なのかを知ってもらうことは2年目の大きな課題です。

■環境基本計画策定委員会（大久保喜正さん）

この委員会の特徴は望ましい環境像を実現するための施策を25項目にわたって具体的に、かつ、できるだけ数値化したことにある。例えば「生態系」という項目は「環境指標：市民が維持管理を行っている雑木林面積 現況：17,165㎡（H16年度） 目標：39,190㎡（H27年度） 根拠：現況における調布市の山林・平地面積の10%」となっている。従来の各種の提言書は抽象的な言葉で書かれ数字で語られることは殆どなかったが、今回その点が改善出来たことは画期的だと考えている。

■都市計画審議会（大塚誠さん）

市が都市計画決定する案件等に関する諮問機関ですが、最近は京王線地下化に絡む駅周辺の再開発関連の議題が多く、先日はパルコの西側のエリアの容積率等の変更が議題に上がりました。委員は市民2人（僕もここに含まれます）、学識経験者5人、議員5人、警察と消防から各1人の14人です。他の委員会と異なりやや堅苦しい雰囲気活発な議論が交わされているとは言い難いですが、出来るだけ議題は事前にお知らせするようにしますので傍聴にいらしてみてください。

■住民自治基本条例に関する市民懇談会（鉄矢悦朗さん）

この市民懇談会は、2004年12月に発足し2006年3月に作業を終え、市長に報告書を出す。8名の委員で17回の懇談会を行った。この懇談会を通して、住民自治基本条例なるものを知りたいことから、公募に手を上げた。懇談会は、当該条例を「自らの課題として、まちづくりを中心とする市政に関する基本的な考え方と方向を示す基本条例」と位置づけ、報告書が、今後の基本条例制定に際してのガイドラインとなることを目的としている。



松岡美代子

2005年11月「福寿打ち合わせ」に入りました。
 私が「打ち合わせ」の存在を知ったのは、教員兼
 いたが、身辺が落ち着かず、入会出来ません
 でした。入会したら、又忙しさに何もうな
 り感がしています??

相互望に度々出席打合わせの所、色々な分野
 の方達と接する中、今まで気がなかつた
 自分自身が見えて来、学んでいます。

思えば「打ち合わせ」の役割を受けて、これだけ
 と云う計画は、何もありませんが、その中
 には、自分自身に生かされて来ると、ふらふらと
 来せん。

しばらくの間、数々のイベントに出席するだけです。
 どうぞよろしくお願ひ致します。

鹿合五



美代子

貸借対照表

資産の部		負債の部	
【流動資産】	1,624,369	【流動負債】	154,000
現金・預金	1,624,369	預り金	15,000
		前受金	4,000
		負債の部合計	154,000
		資本の部	
		【剰余金（欠損金）】	1,470,369
		当期末処分利益（損失）	1,470,369
		（うち当期利益（損失））	△ 39,504
		資本の部合計	1,470,369
資産の部合計	1,624,369	負債・資本合計	1,624,369

特定非営利活動に係る会計財産目録

2005年9月30日現在

科 目	金 額		
資産の部			
【流動資産】			
現金	35,668		
普通預金 東京三菱銀行調布支店	301,552		
普通預金 みずほ銀行調布支店	271,269		
郵便振替受払口座	865,880		
定期預金(指定基金マップの会)	150,000		
未収入金			
売掛金			
前払費用			
流動資産合計		1,624,369	
【その他資産】			
敷金			
その他資産合計			
資産合計			1,624,369
負債の部			
【流動負債】			
預り金	150,000		
前受金 2005年度会費2名分	4,000		
未払い人件費			
流動負債合計		154,000	
負債合計			154,000
正味財産(資産－負債)			1,470,369

収支決算書（収入の部）

科目	予算	決算	備考
会費収入	95,000	66,000	
1. 正会員（個人）	80,000	66,000	（会費 2000円）
2. 正会員（団体）	10,000	0	
3. 賛助会員（個人）	5,000	0	
4. 賛助会員（団体）		0	
事業収入	69,000	31,700	
1. まちづくりに関する調査・研究		0	
景観調査	5,000	0	
景観ガイドライン検討	5,000	0	
地域通貨の試行	0	0	
2. まちづくりに関する啓発活動の企画運営		5,600	
景観シンポジウムの企画・運営	5,000	5,600	
3. まちづくりに関する政策提言・実践		0	
旧大町小学校跡有効活用の方法の検討	5,000	0	
まちのバリアフリー	20,000	0	
4. まちづくりに関する情報提供		26,100	
相互塾・午後のティーサロン	24,000	26,100	
情報提供料	5,000	0	
5. 受託事業	0	0	
寄付金等収入	55,000	30,000	
1. 寄付金	50,000	30,000	
2. 会報購読料	5,000	0	
雑収入	2,000	4	
1. 雑収入	2,000		
2. 利息		4	
当期収入合計（A）	219,000	127,704	
前年度繰越金	1,509,873	1,509,873	
当期末収入合計（B）	1,728,873	1,637,577	

収支決算書（支出の部）

科目	予算	決算	備考
事業支出	96,000	66,780	
1. まちづくりに関する調査・研究		0	
景観調査	5,000	0	
景観ガイドライン検討	5,000	0	
地域通貨の試行	2,000	0	
2. まちづくりに関する啓発活動の企画運営		2,914	
景観シンポジウムの企画・運営	10,000	2,914	
3. まちづくりに関する政策提言・実践		0	
旧大町小学校跡有効活用の方法の検討	5,000	0	
まちのバリアフリー	30,000	0	
4. まちづくりに関する情報提供		63,866	
相互塾・午後のティーサロン	39,000	63,866	
5. 受託事業（景観調査）	0	0	
一般管理費	114,000	97,008	
1. 管理人件費	5,000	0	
2. 旅費交通費	2,000	1,280	
3. 講師謝金	5,000	0	
4. 会議費	3,000	0	
5. 印刷・製本費	3,000	0	
6. 通信費	60,000	75,397	
7. 事務所家賃	0	0	
8. 図書購入費	3,000	0	
9. 什器備品費	0	0	
10. 広報		9,445	
まち会だより発行	10,000	9,445	
ホームページ運営	10,000	0	
活動報告書の作成公開	3,000	0	
11. 消耗品	10,000	8,906	
12. 事務用品	0	1,980	
雑費他	5,000	3,420	
1. 雑費	3,000	0	
2. 振込手数料	1,000	420	
3. 収入印紙等	1,000	3,000	
4. 法人税・事業税	0	0	
当期支出合計（C）	215,000	167,208	
当期収支差引額（A）-（C）	4,000	▲ 39,504	
当期末収支差引額（B）-（C）	1,513,873	1,470,369	

インフォメーション

■第2回ワークショップ「みんなで話そう調布のバリアフリー」

4/22(土) 14:00~17:30(13:30開場) 調布市文化会館たづくり12階大会議場

■おしゃべりサロン相互塾

4/24(月) 19:00~21:00 調布市総合福祉センター4階視聴覚室

「映画と小道具」 語り手:南孝二さん(高津装飾美術・調布FM放送)

5/29(月) 14:00~16:00 調布市文化会館たづくり9階研修室

「スポーツクラブと地域との交流」(仮題) 語り手:村林裕さん(FC東京)

■まち会事務局会

5/8(月) 19:00~21:00 調布市総合福祉センター2階ボランティア活動室

■まち会定例会

5/10(水) 19:00~21:00 調布市国領市民プラザあくろす2階 市民活動支援センター

■調布まちづくりの会はこんな会です。

1996年、「市民の手でまちづくりを」という思いから都市計画マスタープランづくりに参加するために集まった市民がワークショップやシンポジウム、まち歩きなどを行っては議論を積み重ね、1997年1月に市民と行政により調布まちづくりの会を発足させ、他に例がないほど進んだ市民参加と行政の協働により、1998年3月、調布市都市計画マスタープラン原案を作り上げました。

この原案の完成をもって会はひとつの役割を終えましたが、そこに掲げたまちづくりの理念である「住み続けたい緑につつまれるまち調布」の実現や合意形成、市民参加の推進を図るため、1998年10月に新生「調布まちづくりの会」を再発足し活動を継続してきました。さらに2000年3月に特定非営利活動法人の認証(東京都)を得、同年4月に特定非営利法人調布まちづくりの会を設立しました。

会の活動は、景観、統廃合跡校舎有効利用、多世代交流、バリアフリー、地域通貨など自主テーマや市が策定している計画などまちづくりに関するいくつかのテーマを選び、調査研究を行いながら市民への啓発、行政への施策提言、多方面への情報提供、交流などの活動を行っています。

また、2003年6月、当会の一連のまちづくり活動に対し第1回日本都市計画家協会賞佳作を受賞しました。



■入会案内：いつでも、どなたでも入会できます。

年会費 正会員(個人) 2,000円

正会員(団体) 5,000円

賛助会員(個人) 1,000円

賛助会員(団体) 3,000円

郵便払込口座 調布まちづくりの会

00150-1-136749

■編集後記

今号は大塚が初めての編集に挑戦致しましたが、執筆者を始めみなさんのご協力により、なんとか発行することができました。今号はまちづくりの会の活動ニュースの他に会員の方が関わっている各種委員会等の紹介も載せてみました。みなさんも興味のある活動に参加してみませんか。

Apr.'06 大塚